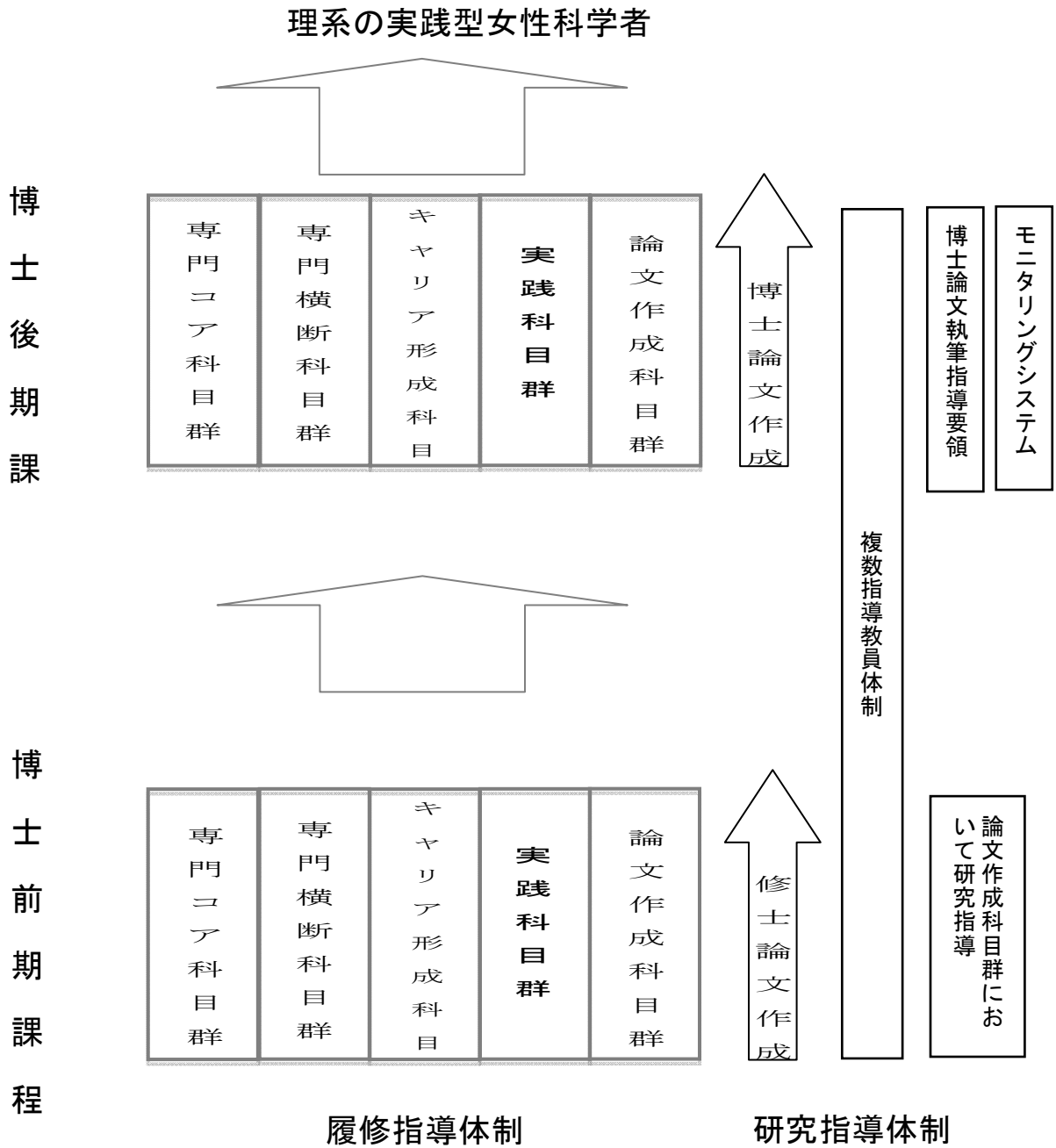


教育プログラムの概要及び採択理由

機関名	奈良女子大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	理系の実践型女性科学者育成		
主たる研究科・専攻名	人間文化研究科物理科学専攻、複合現象科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 角田 秀一郎		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>21世紀は知的基盤社会の時代といわれ、科学技術創造立国を目指す我国では、その基礎となる理系分野の人材育成は重要課題であり、とりわけ、理系の女性科学者育成は国策としても急務である。</p> <p>本学は、理念の第一に「男女共同参画社会をリードする人材育成」を掲げ、特に大学院においては高度な専門教育を提供することで、国内外で活躍できる多くの女性科学者の育成を図ってきた。この実績を基に、平成18、19年度には、魅力ある大学院教育イニシアティブ「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」（以下「イニシアティブ」と略記）が採択され、今なお女性科学者比率の低い、物理学、数学、情報科学分野を基盤とし、それらを複合的に発展させる教育研究プログラムを組織的に実施することで、<u>理系の女性研究者</u>の育成を図ってきた。</p> <p>本教育プログラムは、本学大学院におけるこれまでの実績や経験をさらに発展させ、専門知識や能力を実践の場で活用し、幅広く社会で活躍できる<u>理系の実践型女性科学者</u>の育成を図るものである。この目的を達成するため、本教育プログラムでは、本学大学院の教育課程を基盤とし、以下に掲げる取組みを教育プログラムの柱とする。各専門分野の基礎能力の育成のための「専門コア科目群」、学際的な分野への対応能力の涵養のための「専門横断科目群」、学生の自立的な研究遂行能力や企画・プレゼンテーション能力の育成のための「論文作成科目群」と「キャリア形成科目群」などの科目群をおき、さらに社会から求められる実践力をもつ高度な専門職業人の育成のために「実践科目群」を新設する。このような科目群による教育課程に基づく指導を適切なプロセス管理の下で進め、理系の実践型女性科学者育成という教育目標の実現を図る。</p> <p><u>本教育プログラムの柱</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門知識の修得[専門コア科目群]：各専門分野での専門知識を授ける。 2. 分野横断的知識修得[専門横断科目群]：多様な分野の教員がオムニバス形式で講義を行い、動きの速い知識基盤社会で必要とされる新分野、異分野に対応できる知識・能力を培う。 3. 論文作成[論文作成科目群]：セメスター毎にセミナー形式論文作成指導を行う。 4. キャリア形成[キャリア形成科目群]： <ol style="list-style-type: none"> 4-1. 英語能力・プレゼンテーション能力向上：科学英語能力・プレゼンテーション能力の向上を目指した科目科学英語プレゼンテーション、<u>海外科学英語セミナー</u>を開講し、国際社会で活躍できる能力を培う。 4-2. 学生の自立的企画力向上：学生が自ら企画しテーマを決める科目院生企画セミナー、<u>科学情報発信セミナー</u>を開講する。学生自らが、招聘する外国人を含めた優れた研究者を決定するなどして高度な学術研究に接する機会を作る。 4-3. 女性科学者としての目標設定：国内外の女性科学者のインタビューなどの交流を行う科目<u>女性先端科学者セミナー</u>、<u>女性先端科学者キャリア実習</u>を開講し、女性科学者としての目標設定の一助とする。 5. 実務的能力の育成[実践科目群]： <ol style="list-style-type: none"> 5-1. 双方向型インターンによる知識を実践に応用する能力向上：本学社会連携センターと連携し、大学でも派遣先での実務に関する研究ができる環境を設定し、教員がインターンの研究内容に関わる形のインターン実習科目双方向型インターン実習、<u>企画インターン実習</u>を開講する。これにより専門知識を実務に応用する能力を身につける。 5-2. グループワークによる表現力、交渉力の向上：従来の理論や実験結果から研究課題を発見することや未解決問題の新しいアプローチを探ることなどを課題とする<u>グループワーク演習</u>を開講し、表現力や交渉能力を磨く。 			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるよう示してください。）



身に付けさせる知識・技能

専門知識を基盤とした現場での実践力の涵養

学際的な分野への対応能力、自主的な研究遂行能力
企画・プレゼンテーション能力、交渉力など現場での実践力

目的

基礎科学を基盤とする
高度専門職業人養成

<採択理由>

大学院教育の実質化に関しては、「理系の女性研究者の育成」という、いまやわが国において欠かすことのできない重要な人材育成目的が掲げられている。論文作成指導に加え、目的に沿った「専門コア科目」「専門横断科目」「キャリア形成科目」群が定められるなど、体系的な教育課程が編成され、それを裏付ける指導体制も整っており、評価できる。また、女性研究者育成にとっては極めて意義深い長期履修制度を導入し、優れた運営体制が敷かれていることも高く評価できる。

教育プログラムは、理系の女性研究者・技術者の育成を目指す重要なプログラムであり、「魅力ある大学院教育」イニシアティブの成果を生かすために、従来の科目に加え、新しい実践科目である「双方向型／企画インターン実習」「グループワーク演習」などの提案がなされており、その効果が期待できる。特に、博士前期課程を対象に計画されている双方向型インターン実習は、その計画中の教員の役割も明確であり評価できる。ただし、博士後期課程の企画インターンの実施に際しては、知的財産の取扱いや、教員の関わり方、学位取得との関連などについての更なる検討と工夫が望まれる。プログラムの実施に対しては、大学独自の支援体制も整っており、支援期間終了後の展開にも期待できる。